

長府陣屋を知る



北西から北東方面（周防灘）を望む

～長府藩主の居館～

【城郭データ】

城郭名：長府陣屋（ちょうふじんや）

時代：江戸時代～幕末

城主：毛利秀元以下、歴代長府毛利藩主

主な遺構：築山、園地、石積（発掘遺構）

登山条件：現長府庭園～豊浦高校周辺

所在地：長府黒門東町～長府宮崎町

長府藩初代藩主の毛利秀元。毛利藩を取り仕切る辣腕と茶人としても名を残す。



【居館図写（下関市立歴史博物館蔵）】

江戸時代に作成された居館図の写し。流鏝馬の様子が描かれるのは、陣屋の正面、大手口から桜の馬場にかけて。現在、付近には練堀のみが残る。



【長府陣屋の概要と特徴】

関ヶ原の合戦後、毛利本家の養子であった毛利秀元が分かれ長府藩を成立した。当初は串崎城を拠点としたが、一国一城令により城を取り壊し、城の直ぐ西側ふもとに新たに館を築いたのが長府陣屋である。

陣屋は薬研堀や港湾など串崎城の一部を再利用し、東側の城下町方面に大手口などを整えた。

幕末、外国船による艦砲撃に合い、山間部の勝山の地に居館を移すこととなった。現在、豊浦高校には陣屋の名残とされる園池や築山が残る。

長府陣屋のあるところ ～城跡に建つ学府～

長府陣屋は現在の豊浦高等学校にあった。豊浦高等学校は、江戸時代の終わり頃に設置された藩校「敬業館」を前身とする。陣屋付近の当時の城下町景観が現在の街並みに部分的に残る。

【アクセス】

国道9号線沿い。城下町長府の南側で、陣屋は現在の豊浦高等学校と長府庭園、下関市立美術館の駐車場付近にあたる。学内への立ち入りは制限。



A. 下関市指定文化財「長府藩の場跡練堀」。ここから大手口にかけて存在した桜の馬場は、現在は区画としてのみ残る。



B. 長府藩の藩校「敬業館」に由来する豊浦高等学校。明治以降、当地に定まった当校は、伝統的な学風に名残を残す。



C. 長府庭園は家臣の西家の屋敷地であった。その後大正期には、捕鯨で財を成した中部幾次郎の邸宅となった



D. 長府黒門付近を含め、陣屋の周辺には家臣たちの館が集まっていた。現在、街並みにその面影が残る。





長府陣屋を攻める

【長府陣屋の縄張り】

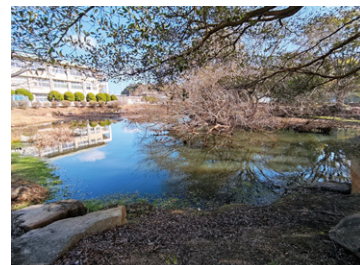
長府陣屋は一国一城令により串崎城を廃止した後、麓に整備されており、薬研堀や御舟入の機能を継承した造りとなる。これに加え、新たに北西側城下方面を大手口として、重点的に堀や塀を巡らせ防御を固めた。南側には小丘陵が自然の護りとなっており、三方が厳重に守られた厳重な造りとなっている。西側は搦め手となり、非常時の避難経路として確保された合理的な造りとなっている。



江戸時代終わり頃の様子を描く「御城山絵図」は長府陣屋の形態を記しており、縄張りを復元する上で貴重な資料。(下関市立歴史博物館所蔵)



A：平成16年(2004年)に実施された長府庭園駐車場での発掘調査では、江戸時代の地層から区画の石列等が見つかった。(下関市教育委員会提供)



B：学校敷地内には陣屋園池の痕跡が残る。現在は「薬研堀」と呼ばれている。



C：学校敷地東端には、旧薬研堀の痕跡が区画として残る(テニスコート付近)。



D：陣屋の南方面の護りとなっていた「南方山」。現在も学校敷地に杜として残る。



長府庭園の駐車場は陣屋跡。施設内には江戸時代の景観を残すお庭もある。



弘化三年屋敷割図(下関市立歴史博物館所蔵)。城下町の古絵図も参考にできる。

もっと長府陣屋を知りたい...

【参考となる資料】

- ・「山口県中世城館遺跡総合調査報告書 - 長門国編 -」(2017) 山口県教育委員会
- ・「串崎城跡」(2004) 下関市教育委員会
- ・「宮崎遺跡試掘・確認調査現地説明会」資料(2004) 下関市教育委員会
- ・「図説江戸三百藩「城と陣屋」総覧西国編」(2006) 学習研究社

【参考となる場所など】

- ・長府庭園：長府藩家老格の西運長の屋敷跡で、池を中心に書院・茶室・東屋など、当時のたたずまいが残されています。(TEL: 083-246-4120)
- ・発掘調査のことは下関市教育委員会文化財保護課へ (TEL: 083-252-3867)、歴史史料のことは下関市立歴史博物館へ (TEL: 083-254-1080)

* 豊浦高校敷地内の見学や撮影は、同校に許可を得てください。